

★★第2次鹿屋市総合計画 基本目標・基本施策等に対する自由意見★★

基本目標5 とともに支えあい、いきいきと暮らせるまち

【基本施策】①地域福祉の充実

②健康づくり・生きがいの推進

③共生協働・コミュニティ活動の推進

年代	自由意見
10 歳代	寺子屋でいろいろな年代の方々と話す機会が多くあり、コミュニティをつくることのできたので、もっとこのような活動が広がればよいと思います。
	文化祭などで町の方々と交流が図れる。
	鹿屋市文化祭ではどんな催し物をしているのかもっと知る機会があるといいと思う。僕個人があまり鹿屋の街を歩くことがないので注意して見れていないのもあると思う。
	とてもいい。
20 歳代	鹿屋よかもん商店市に参加し、お得な商品券が魅力的だった。次回は、もっと大きな会場で、多くの出店の出店を期待しています。
	平和であってほしい為。
	町内会などの地域コミュニティの在り方を見直してもいいと思う。入会しない人が増えている。町内会費を払ったうえに休日に奉仕作業をしなければならないため、入会した人が損をしている。全員から税として徴収して行政で管理をするとか、入会を義務化するなど平等に地域を守る仕組みがほしい。
	どうしても問題となってしまうのは高齢者による超高齢者への介護問題だろう。現在の現役世代の平均年齢は高く、今後その世代の交代により大幅に人員不足が見込まれる業種が多々ある。それらを支えながら政策を行えばと思う。
30 歳代	せっかく米軍の方が来られているので、交流の場を設けてほしい。
	高齢者や子供たちと一緒にできる催しを定期的に行えば良いと思う。高学年になっても学童に通う子供が多すぎるのもどうかと思う。
	ダウン症や ADHD などの人たちに対する認識への教育が東京都と比べて遅れすぎている。無知が差別を生むことから、もっと早い段階での教育を行うべき。
	文化祭は郊外者が行きづらい雰囲気がある。ハンセン病など市民でも参加しやすい講演などがあると良い。
	ご近所付き合いも少なくなっているので、交流は大切だと思うので、頑張ってください。
	在宅福祉アドバイザーは、父が在宅でのケアが必要になった時、母が助かったと言っていた。健康づくり・生きがいの推進は、講座を受講している方でないと参加できないイメージがある。人権教育などは、具体的にどのようなことをしているのか、よく分からない。
	将来人口が減る気がする。お年寄りと子供の差があり、中間層が少ない。
	鹿屋市は、やはり高齢者の方々が多く、交通の便も少なく地域に取り残された方々がいるので、少しでもそういう方々を減らしてもらいたい。
	ともに支え合いが出来るのは時間的・金銭的に余裕のある人だけ。我が家は自分たちのことでいっぱいなので、他の人のことを支えている場合ではない。
高齢化が顕著で若者が楽しめる気配がない。	
40 歳代	地域福祉の充実を頑張ってもらいたい。高齢になっても安心して暮らせると鹿屋に住みたいと思ってもらえる。健康づくりは、若いころから体を動かす習慣をつけると、病気のリスクを減らせるし、ストレス軽減にもなると思うので、何かあれば参加したい。高齢になっても、生きがいを持ってたら幸せだと思う。

年代	自由意見
40 歳代	市民講座で自宅付近の公民館で開催されるものは、平日の日中が主なので、夜間や土日開催のものがあつたらいい。
	高齢者のいきいき大学や地域行事への助成金など、本当にありがたい。「1年先は花、10年先は木、100年先は人を育てる」子どもたちにどんな言葉や想いを伝えるか、教師の質を高めるために優遇してもらいたい。PTA活動を見直すためにも、地域のOBに入ってもらえるようにしてほしい。仕事、家事、PTA、地域参加、子どもの習い事など、忙しすぎる。
	予算さえ通れば簡単に済むことだから、期待できる。
	福祉対策はとても重要なので、どんどん進めるべきと思う。ただ若者が減る中で「支え合い」ができるのか、謎。日本自体が高齢化社会な上で、若者に魅力がない地域では福祉の重圧が深刻なのでは。自分もそう先の話ではないので、年をとっていきいきと暮らすための知識を得たい。
	市民が、楽しめるイベントが沢山あれば良いと思う。
	一部の人しか利用していないし、それを知らない人が知る機会が無さすぎる。
	福祉に力を入れて。
	高齢者や障がい者と接する仕事の方の虐待などあるが、そのような方々を支えモチベーション維持、ストレス発散させる対策はあるのか。自分たちがいずれ、福祉施設を利用することを考えると気になる。
	若い世代をもっと大切にしたい方いいと思う。
	知り合いが病気になり病院に通っているが障害年金の手続きやヘルパーさんの申し込みなど何のアドバイスも受けておらず困っていました。どこに行けば相談できるか分かりやすく知れると助かるのかと思います。
	住民の福祉や社会保障制度に関する関心や理解を今よりも上げる事が必要だが、オレンジカフェの出席者数やキャラバンメイトの認知度等を見ると、まだまだ工夫が要ると思う。
	共に支え合い、共に助け合い！色々な文化行事や市民参加型のイベントを増やして下さい。若い頃に文化祭には津軽三味線が出たことがあります。とても喜ばれたことを今でも記憶しております。楽しみのあるまちはいきいきするはずです。
すみません。生活のために雇われ仕事に追われて、必要だとは思いつつ、市民活動に参加できていないのが現状です。	
50 歳代	一人暮らしの高齢者が孤独にならないよう、地域の方々との交流の場を作ってほしい。
	犬の散歩をする際、パトロールの腕章をつけると少しでもボランティア意識や子ども達の見守りにつながるのではないかと。
	民生委員、町内会とあるが、個人情報を守られないことや町内会未加入者もいる。推進しているより、後退している。
	講座なども充実していますが、新しい分野も増やし、高齢者のスクエアステップのような体力増進や、1人暮らしの方が話し合えるコミュニティをもっと増やせたら素晴らしいと思います。
	文化活動は、今後スマホやパソコンを自由に駆使する世代が老齢期を迎えることを踏まえた工夫が必要だと思う。
	コロナ禍で近隣住民とも集まりもなく、個人情報保護などでさらに情報もなく支えようにも支えられない。
	自己満足の文化事業にどれだけの意味があるのか。より魅力的な外部のイベントの誘致にお金をかけるべきでは。
	人との関りが希薄になりつつある現代において、地域コミュニティの役割を再度、検証すべきと考える。

年代	自由意見
50 歳代	文化祭への参加団体が固定化しているイメージがある。
	活動がよくわからない。
	転入者が増えなければ近所付き合いは希薄。町内会は仕事を引退した地元高齢者が中心で働く世代とは合わない。
	色々な取組みをされていると思いますが、市役所関係部署と関係者だけが良く知っているだけで、もっと市民に周知が必要ではと思います。
60 歳代	文化事業の情報を大きく発信してほしい。
	民生委員やアドバイザーになる方が減っていると聞くとともに誰が担っているのか知らない人も多い。
	人口減少の原因の一つだと考えるので、若者と協力し合うことが必要。
	地域の繋がりがなくなっており、地域がまとまるような企画が必要だと思う。市職員の皆さんの地域との関わり方に差があり、もう一度地域との関わり方を真剣に考えてほしい。地域がまとまることで、ゴミの問題や高齢者に関する問題も少なくなっていくと思う。
	地域福祉の充実は、個人情報や邪魔して立ち入りできないことがあるので難しい。志布志などのように催し物など質のいいものを招いてほしい。この時代になっても変わらず道で会うと挨拶をしてくれる小さい子どもがいる。親の姿勢の向上を期待したい。人権教育をどう活動に繋げていけるのか考えてほしい。PTAでも参加してほしい人は全く参加がなく理解してもらえなかった。
	高齢者の支援だけでなく、若い人が魅力を感じる町づくりに重点を置いてほしい。優秀な人材が地元に残ってもらえる施策の実施。
	コロナで2～3年イベントや集会等が行われていないが、年寄りが楽しく過ごせるようになりたい。
	健康づくり・生きがいくりの推進は、本当の意味での市民参加型になっているのか疑問。文化協会主体ではなく、一般の方は入れない一部の人のものになっていないか。共生協働・コミュニティ活動の推進は、PTAや老人会だけに啓発しているような気がします。共生協働のあり方の再考を望みます。行政がやりやすいとか事務的に進めていないか。住民力を高めるための仕組みを構築してみてもどうか。
	何かやっているのは知っているが、内容はよく知らない。仮に知っていて、参加しようと思っても交通手段がないと参加できない。
	20年前に比べると文化センターでの催しが少なく感じています。
	交流・発表の場である文化会館や公民館が一番行きづらい場所にあるうちは期待できない。
	近所付き合いが少なくなった。子どもたちの姿をみない。
	町内会、自治会への支援の強化。
	老人優先ではなく、子どもたちのための事業を実施すべき。
	高齢者は施設に入所することで、鹿屋市からのおむつの無料配布の支援が受けられない。施設に入所してもおむつ代は掛かるので、もう少し高齢者の支援を充実させてほしい。
	町内会加入率は下がる一方なので、町内会を行政の下請けにせず、市職員(パートではなく)自ら動いてほしい。
	地域福祉は今も充実しているのではないか。啓発はしやすいが、動く人がいるか。
高齢者の健康寿命の向上を目指した、取組が必要と思える。	
いろいろ考えているようで今後の取組に期待したい。	

年代	自由意見
60 歳代	ほほど充実している。
	人は全て同じではない。否定からは何も生まれない。
70 歳代	文化事業の発表の場が少ない。
	健康や生きがいがづくりに参加して、本当によかったと感じている。
	各町内、民生委員の方がいろいろ頑張っているらしいですが、在宅福祉アドバイザー等、とても必要と思う。
	2年間、コロナ禍で誰とも接触できなかった。
	75歳を過ぎてからの介護保険料が高い。
	あまり公費をかけるメリットが期待できない。文化祭など市内一か所で開催し、各支所では開催しない。同好者同志で互いに広く学べる。
	文化会館にもっと有名人を呼んで活用すべき。
	集落人口の減少により、交流が難しい。
	コミュニティバスの乗車率は、極端に少なく乗客ゼロを見かけるが、もっとアイデアはないものかと思います。
	市民だけに投げかけても市が動かなければ市民は動かない。
	市民一人一人がどう意識して取り組むかが重要であり、参加させる動機付けをどうするかが課題ではないか。
大事なことではあるが、年々、町内会（班）隣人等の交流がなくなってきている。	
80 歳以上	文化祭などコロナのため、進められていないのでは。
	高齢者が多くなるので、健康づくり、生きがいがづくりが、ますます大事になる。
	まず、いろいろやってみることが大事だと思う。
	マト外れの意見ばかりですみません。老人会への加入促進の活動もさらにいろいろ考え取り組んでほしい。